

18期生 上田 泰史



東大津高校には色々な思い出がありますが、自分の核を作った3年間であったと断言できます。入試の日には同じ中学の友達が消火器を倒してしまい、白煙まみれの教室で試験を受けました。倒した彼は今でも仲良く、なぜか今いっしょに働いています。

31期生 西 雅紀

飛翔会のみなさんこんにちは。今、社会人一年目で滋賀県の小学校教員をしています。高校時代に描いた夢が結実し、春から教壇に立つことになったわけですが、予想していた以上に忙しい日々に驚きました。授業はもちろんのこと、毎月のようにやってくる学校行事、委員会やクラブ活動、保護者との連携、そして事務的な仕事から研修まで、色々こなした上でしっかりと子どもと向き合わなくてはならないのです。「自分を育ててくれた先生は、こんなにたくさんのお仕事をこなしてい

我々の学年は、入試が1.4倍という高倍率だったせいか先生方の気合いの入りがハンパでは無く、英語のマラソンテスト（今でもあるのかな？）など、勉強量がとても多かったのです。私は落ちこぼれていたもので、1回でテストをパスすることは皆無。最長夜9時まで残ってテストを受けたこともありました。（泣）

部活のバスケット部では1年の冬に右膝前十字靭帯断裂という大怪我をしてしまい、手術後2ヶ月の入院、8ヶ月のリハビリをして復帰を果たしました。当時のバスケット部は、県3位と強かったのでレギュラーにはなれま

31期生

たのか！と素直に感じました。そんな忙しい日々ですが、子どもと過ごす時間というのはとても楽しいものです。今年度は二年生の担任をさせてもらっているのですが、子どもたちは本当に元気いっぱいです。少し元気がよすぎても困ることもありますが、毎朝教室に入って生き生きとした表情に出会えます。疲れていても、「がんばらなアカン！」と思うのです。元氣は連鎖すると思うのは本当なのだと、初めて知りました。

18期生

せんでしたが、キツイ練習を怪我した足で最後まで続けられたことは、何をするにも大きな自信になりました。チームメイトとは今でも飲み仲間、月数回バスケットもしています。

また何より大きく衝撃を受け、その後の生き方を変えたのは、中学から同級生だった武田君、2年のクラスメイトだった江草君が在学中に事故で亡くなったことです。勉強も上手くいかず、部活も怪我して悩んでいた私にとって「生きる」とはどういうことかを深く考え、彼らの分も

4月に出会った子どもたちは、決して同じ場所に立ち止まっていけません。授業で一生懸命に手を挙げて発表する姿、運動会ではしっかり演技をきめて誇らしげな姿、友達と楽しそうに遊ぶ姿、もちろん喧嘩して涙する姿や叱られて反省する姿も。子どもたちは日々、喜怒哀楽を繰り返して成長していきます。その歩みに関わることができるといふことはとても幸せなことだと感じると同時に、この仕事の責任の重さを感じます。まだまだ、働くということのほんの一片しか知らない身ですが、今後も生まれ育った滋賀の地で、子どもた



ちの成長の力添えをしたいと思っています。（西雅紀さんは、在学中は生徒会長として学校行事で頑張ってくれました。現在は、小学校の担任として奮闘中です。）

正田先生 ご退職 お疲れさまでした!

卒業生に東大津で最も思い出に残っている先生は誰ですかと問われたら!? 特に関校からの卒業生から間違いなく正田先生の名前が出てくると思います。先生は、開校の昭和50年より昭和60年の12年間と平成15年から平成22年の8年間、計19年間勤務いただきました。

れないのでびっくりしました。むかしから老けておられたのかもしれません。（笑）先生がお仕事で東京に来られることがあるというのを知り、東京の同級生6名と食事をしました。本当に楽しいひとときでした。その後もたびたび先生を囲んでやります。（4期生・大川真一さん）との連絡をもらいました。書道家として益々多忙な日々を送られると思いますが、これからも東大津高校の卒業生をよろしく願います。

1期生、4期生の担任、栗東高校から帰ってこられてからも29期生、32期生の担任をされ、多くの卒業生が進路でお世話になりました。その正田先生も春ご退職となりました。今日でも厳しと言われる「東大津の生徒指導」は、先生により築かれたと言っても過言ではありません。また、校内の至る所に書道家としての先生の作品がたくさんあります。体育館の前にある校歌や校長室前の高村光太郎の「青年」の詩、校門の「東大津高校」の文字も先生の字です。「昨年関西に出張で帰ってきて午前中時間があつたので学園祭中の東大津高校を訪れ、正田先生と29年ぶりにお出会いました。変わって

